

## 令和5年度 第3回 積志中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月20日（月）15時15分から16時20分まで
- 2 開催場所 積志中学校 会議室
- 3 出席委員 今宿 康一、上野 由紀夫、三輪 清、岡本 知之、林 和法、北 一樹、  
太田 亮平、鈴木 健司
- 4 欠席委員 新村 佳子
- 5 オブザーバー 小池 誠（積志協働センター コミュニティ担当）
- 6 学 校 森田 忠（校長）、永田 行央（教頭）、高林 昭寿（CS担当）、  
北寒寺 知子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 清水 悠（教育総務課）、新村 和弥（指導課）、吉山 幸洋（指導課）
- 8 会議録作成者 CSディレクター 北寒寺 知子
- 9 議長の選出  
議長については、第1回目の会議で、本年度は年間を通して林委員に務めていただくことが決定していたため、林委員に進行をお願いした。
- 10 協議事項
  - (1) 「休日の部活動指導に参加可能な人材の調査」について（経過報告）
  - (2) 地域防災訓練について
- 11 会議記録  
司会から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
  - (1) 「休日の部活動指導に参加可能な人材の調査」について（経過報告）

岡本委員から、10月から地域住民、保護者を対象に実施した「休日の部活動指導に参加可能な人材の調査」についての中間報告があった。

    - ・調査の結果は、回答者が10名おり、そのうち指導できないと回答した方が2名いたため、実際に指導できる方は8名である。予想以上に少ないのが実態である。
    - ・指導できる種目が、限られており、積志中学校にある部活動すべての指導者をこの地域の中から見つけ出すのはなかなか難しいかもしれない。
    - ・今後も継続して再調査していくが、部活動の地域移行は、クリアすべき課題が多く、非常に困難なのではないかという感想をもった。

岡本委員からの中間報告に対して、委員からは以下の発言があった。

    - ・回覧文書には、「実態把握のための調査」と記載されているが、回答すると責任が出てくると思われ、回答する人が少ないのではないか。（林委員）
    - ・回答者は5名程度だと思っていたので、8名というのは多いと感じた。休日の部活動指導をすべて任せられてしまうのは、指導に当たる方への負担が大きすぎるので、ハードルはかなり高いと思う。また、部活動指導に関われそうな層の人が回覧板を見ていない可能性も高い。地域には部活動指導ができる人材がまだまだ隠れているかもしれないので、今後も継続して広報活動をしていくことで、少しずつ増えていくのではないか。（上野委員）
    - ・自分の子供が部活動に所属している保護者に、直接、声をかけるのはどうか。（今宿委員）
    - ・自分自身が地域クラブの立ち上げに携わり、その競技は未経験だが、今はそこでコーチをしている。立

ち上げの際に、保護者全体に声をかけたところ、その競技の経験者は意外にも多いことがわかり、その方にメインのコーチを依頼した。実際に中学生に対して指導をするとなると経験者、有資格者でないと難しいのではないかと思う。(北委員)

- ・保護者が地域クラブの指導者として登録し、活動を行っているケースはこれまでもある。しかし、そのケースだと子供の卒業とともに指導から外れてしまう方が多く、持続可能な取組とはならないことが多いので、継続的に指導に関わってくれる方を探す必要がある。長期的な視点で指導者を発掘し、部活動を指導できる人たちの人材バンクをつくりたいと思っている。(岡本委員)
- ・積志地区にあるスポーツ団体(スポーツ少年団など)に声をかけ、指導者を紹介していただくという形で多くの人に周知を図っていくことも考えている。地域住民同士の横のつながりで広がっていくと良いのではないか。(岡本委員)
- ・競技経験はあるが、指導経験がない地域の人材を指導者として育てていくことは考えていけないだろうか。(北委員)
- ・小学生ならばある程度は指導できるが、中学生だと指導すべき内容が格段にレベルアップするので指導することへのハードルが高くなってしまう。(北委員)
- ・生徒数が減少傾向にあり、部員の確保が難しくなっている学校も増えている。近隣の学校で調整し、部活動の統廃合を行い、中学生が学区を越えて活動できるような体制にしていくのはどうだろうか。そこに専門的な指導ができる教員も配置でき、生徒の人数が少なくても活動ができないという問題も解消できる。今までのように、どこの学校にもあらゆる種目の部活動があるというのは現実問題として難しいので、地域移行と併せて新しい部活動の形を考えていくことも必要だろう。(岡本委員)
- ・積志地区の小学生の吹奏楽は学校ではなく、地域の指導者の下に4つの小学校の児童が集まり、積志協働センターで活動をしている。ただ、月謝がかかるので、保護者に負担がかかるのが気の毒だが、そのような方法もある。(今宿委員)
- ・今回の調査に回答してくれた方とは、1月から3月の間に一度、話をする場をもちたいと考えている。次回の学校運営協議会で報告できたら良いと思っている。(岡本委員)

## (2) 地域防災訓練について

岡本委員より、地域防災訓練について以下のような説明と提案があった。

- ・地域において中学生はあらゆる活動を行う際の重要な役割を担っている。中学生と地域住民がお互いのことを知る機会を意図的に作り、地域の中で中学生がもっと活躍できるような体制をつくってきたい。地域の防災訓練の場で、中学生が意欲的に活動に取り組むことが、中学生と地域を結び付ける1つのきっかけになるのではないかと考えている。そこで、学校運営協議会の来年度の取組の1つとして、防災訓練への取組を行ってみたい。
- ・2学期に学校で行われる避難訓練の時に、地域の防災隊長を学校に招いてはどうかと考えている。実際に中学生と顔を合わせ、そこで地域の防災訓練に参加した中学生に対して、どのような活動を行うか、何を中学生に手伝ってほしいのか、中学生には地域の中でどのような役割を担ってほしいのかなどについて説明をしてもらうことで、中学生の防災訓練への理解度や参加意識も変わるのではないかと思う。

岡本委員からの説明と提案に対して、委員からは以下の発言があった。

- ・今年の地域防災訓練は、自治会で行うのは全体の半数程度のものである。その他半分の自治会は行わないと聞いている。(三輪委員)
- ・現在、各自治会でどのような防災訓練をしているのかは、調査したい。(岡本委員)
- ・中学生は地域にとっては頼りになる存在なので、中学生が積極的に取り組めるようなアイデアを出し、活動を行っていくことはとても重要である。(今宿委員)

協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

## その他報告事項等

- ・CS担当より、次回の学校運営協議会は令和6年2月26日(月)15時15分から積志中学校会議室で開催する旨の連絡があった。
- ・CS担当より、積志中の学校運営協議会は来年度で3年目になる。委員の任期は3年なので、継続していただきたいが、諸事情があってそれができない場合は、申し出ていただきたい旨の連絡があった。